

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

災害と税金

人吉市立第二中学校

三年 佐伯 桜

日本は世界的に見ても自然災害が多い国だ。最近では特に、南海トラフ地震などの災害に関するワードがSNS上でも多く見られ、人々の関心が高まっていると感じた。こうした災害に備えるためには、地震に強い建物の建設や避難所の十分な備蓄が必要だ。

そこで私は、災害に備えるために、税金がどのように使われているのか疑問を持つた。

調べてみると、災害が起きたときには、国や自治体が税金を使ってさまざまな支援を行っていることが分かった。たとえば、被災地への支援物資の輸送や、自衛隊による救助活動、避難所の運営のほか、仮設住宅の提供や道路の復旧なども税金によってまかなわれていたのだ。地震にとどまらず、他の災害でも税金は大きな支えになっている。実際に私たちが暮らす熊本県でも令和二年七月に豪雨災害があり、私のおじいちゃんも仮設住宅や支援物資の提供を受けて生活をしていたときがあった。私はそのとき、この物資たちはどこから送られてくるのかを知らずに、ありがたいな。という気持ちだけ持っていた。しかし今思うと、税金がなければ、おじいちゃんも他の被災した人々も、あのときよりもっと不安や苦しい思いをしていただろう。

私たちは、災害の怖さ、苦しさを知っているから災害支援のために税金が使われているということが分かり、私はうれしかった。

そのため、災害時の税金の使われ方をもつとくわしく知ろうと思った。

まず、日本で地震と聞いてパツと思いつくのは、東日本大震災という人も多いのではないだろうか。この東日本大震災では、復興特別所得税という新たな税が創設されたのだ。これは東日本大震災からの復興財源に充てるための税で通常の所得税に上乗せして徴収が行われたそうだ。また、災害減免法といい、災害被害者に対する租税の特別措置の対応が行われていることも分かった。

税金が支える災害時について調べてみて、普段納めている税金が、自分の身近な人にも日本にいる知らない人にも、いざというとき役に立つことが分かつてうれしかった。これからは、税がどのように使われているのかにもっと関心を持ち、税を納めていきたいです。